

# 市P連おおた

題字：太田市PTA連合会 会長 内田 章彦

第 39 号

★発行所：太田市PTA連合会  
 ★発行責任者：内田 章彦  
 ★編集担当：太田市PTA連合会 中央ブロック  
 鳥之郷小PTA・太田小PTA  
 宝泉東小PTA・城西小PTA  
 西中PTA・城西中PTA・北の杜学園PTA  
 ★印刷所：Sence

## ふりかえり

太田市PTA連合会 会長  
南小学校PTA会長

内田 章彦

怠惰な性格ゆえ、皆様に迷惑かけぬよう心に決めた年度初めから一年が過ぎようとしています。経験と知識の不足する中でスタートは思いのほか冷静であったと記憶しています。これは、参加メンバーの協力と努力があったからだと思っています。頼りない代表を支えてくれた皆様に感謝します。

事業について振り返ると、各担当者が工夫して開催してくれました。おかげで、参加した子供たち、保護者、先生には美のある経験になったと思います。設営側のゴールへ向かう一体感も感じられました。来年以降も、参加者皆様に有意義な体験をしていただきたいと思います。

来年以降は、何がよい活動なのかを目指して変化する太田市PTAであってほしいと思います。皆様の協力を深謝し、令和八年度の躍進を願いながら結びます。ありがとうございました。

## 巡り合い

太田市PTA連合会 顧問  
城西小学校PTA顧問

小林 克敏

令和七年度、太田市PTA連合会顧問を務めている、城西小学校所属の小林克敏です。昨年度は会長を任せていただき、市P連に携わって二年が経過しようとしています。

がら、前例にとらわれないことなく、自由に未来に向けた活動が議論できる場になってきているように思います。

また、PTA活動を通じて得られる多様な出会いによって生まれた「顔が見える関係性」こそが、組織を動かす原動力になるといえることです。全然知らない誰かに向けた取組ではなく、目の前にいる人の想いを知るからこそ、応援したくなる。笑顔が見たいと思える。そ

りです。地理的に近い開催だと更によかったと思います。

充て職については、会長就任とともに別団体に参加する機会が増えました。参加して初めて活動内容を知る団体もあり、自らの知見を広げることにつながりました。PTA活動に関連することも多く、参加して勉強になりました。

来年度は、何がよい活動なのかを目指して変化する太田市PTAであってほしいと思います。皆様の協力を深謝し、令和八年度の躍進を願いながら結びます。ありがとうございました。

## 群馬県PTA連合会役員挨拶



群馬県PTA連合会  
家庭教育研究会  
群馬県PTA連合会  
家庭教育委員長 大澤 桂子

今年度の県P連家庭教育研究会は、「子どもの生きる力を大きくむ家庭の教育力の充実」子どもたちの笑顔とともに、未来、その先の絆を「をテーマに、九月二十日（土）、十一月十四日（金）群馬県生涯学習センターにて開催しました。

第一回は、理学療法士・ピラティスインストラクターの須永紀希氏を講師に迎え、「親子で一緒に考える、食事と運動の重要性について」をテーマに講演を行いました。

第二回は、彩の国こども未来代表の藤野彩子氏による「子どもたちの未来に繋がる包括的性教育」の講演でした。会場は少し遠方でしたが、太田からも多くの方が参加し、県内小中学生の保護者同士の活発な情報交換が行われ、学びと交流がより深まりました。また、内田会長が理事として家庭教育委員会メンバーに加わり、和やかな雰囲気の中で活動することができました。

## 群馬県PTA大会 前橋大会に参加して

群馬県PTA連合会 副会長  
太田市PTA連合会 顧問

黒田 篤史



令和7年11月29日 昌賢まえばしホール(前橋市民文化会館)にて開催されました。「Well being! 子どもたちと一緒に学び・楽しむ 前橋大会」と題しまして、子供たちも参加できる初の大会となりました。

ダンスチームによるステージに始まり、eスポーツ・自衛隊による講演・三行詩の表彰式などなど……盛りだくさんの内容での開催でした。終始子供たちの楽しそうな声が聞こえ、たくさんの方を学び、改めて地域や学校、団体の意義・つながりの大切さを考えなおしました。

家庭の形態、生活スタイルなど、変化していくなかで各学校でのPTAの役割、意義が多く話に上がっております。地域によっては、役員を減らしたり、委員会をなくしたりと、その学校に合ったそれぞれの取組をしているそうです。

その学校でのよい取組や活動話し合い、同じ立場の悩みを共有し、よりよい活動に進化させるのが団体であり、それが太田市PTA連合会・群馬県PTA連合会だと思います。私は、PTAに全く無縁の人間だったのですが、活動をする度にやりがいを感じ、その活動の度に知り合った仲間と感動を共有して、楽しく活動をするようになっていました。もう少しですが、負担なく時代に沿ったPTA活動を楽しみたいと思っています。小さな活動でも、まずは自分の子供、子供の友達、学校の子供、地域の子供、太田の子供……となにかの役に立てるよう一度しかない時間を、子供と一緒に活動していきたいです。

## 群馬県PTA連合会表彰 おめでとうございます

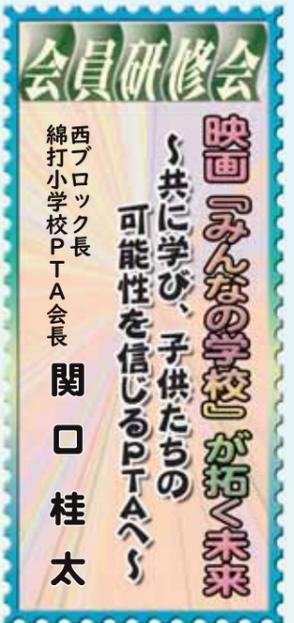
### ●三行詩コンクール 入賞者

<小学生の部> 優良賞  
おとうさん そとあそびのぶろ ぼくはでし  
南小1年 にしむら けんしん

<中学生の部> 群馬県知事賞  
エレベーター 必ず最後におりる父 家族思いな父の行動  
太田中1年 竹井 寧々

### ●広報誌コンクール 入賞PTA

奨励賞 城西小学校PTA「ふれあい」  
奨励賞 北の杜学園PTA「北の杜新聞」  
奨励賞 藪塚本町中学校PTA「朋友」



西ブロックが中心となり開催した今年度の会員研修会は、映画「みんなの学校」の上映会を通して、私たち大人が、子供たちの学びや育ちに関わるかを深く考える機会となりました。

参加された皆様からは、「子供たちそれぞれの違いを尊重する大切さを、改めて感じた」「学校や地域が一緒に支える意味がよく分かった」という、映画の核心に触れる貴重な御感想をいただき、研修会担当として喜びを感じています。

少子化や共働き世帯の増加、教職員の多忙化など、子供たちを取り巻く環境はかつてないスピードで変化し、大人たちも余裕を失いがちな時代です。しかし、そんな今だからこそ、子供たち一人一人が安心して学び、失敗し、挑戦できる環境を、私たち大人が「ゆるやかなチーム」として力を合わせ、つくるのが求められています。

PTAは「負担」や「義務」ではなく、子供たちを応援する大人が「無理なくできること」を、できる人が「よい言葉のもと、つな

### 令和7年度 家庭教育委員会報告

今年度の太田市PTA連合会家庭教育委員会は、参加者の負担にならない、少しでも意義を感じてもらえることを目指して活動し、役員一同が保護者として知りた

い、やってみたいことを元に全三回の企画をしました。第一回は、「子供のSOSを見逃さない!!」よりよい距離感の作り方」と題して、保護者として子供と接する際に指針となる考え方を講演していただきました。質疑応答では、多くの子育てに関する悩みが相談されました。

第二回は、「ホバークラフト作り」を行いました。空気の実験や細やかな説明のおかげで、楽しく参加できたという感想が多く寄せられ、思春期の子供とコミュニケーションをとるよい機会になったとの声もいただきました。

最後になりましたが、参加してくださった皆様、太田市P連本部役員の皆様、担当の渡邊先生、そして共に運営に尽力してくださった家庭教育委員の皆様に、心より感謝申し上げます。

現在、第二回の講演会を準備中です。参加した甲斐があったと思ってもらえることを願っています。

PTA活動の是非が問われている昨今ですが、個人が能動的に学校や社会と関わるのが難しい時、家庭と学校、地域社会をつなぐ存在は必要だと思います。普段はなくても困らない、だから必要性を実感しにくい。なくすのは簡単ですが、この一年の活動を通して、より適切なPTAの在り方が見付かればという思いが強くなりました。

「チーム」です。たとえ短い時間でも、ほんの小さな関わりでも、それが子供たちの大きな支えになり、学校の力にもなります。

今回の研修会が、子供たちの未来に寄り添う視点を共有し、保護者同士・学校・地域がつながりながら、全ての子供たちが安心して通える学校をつくっていく一歩となればと願っています。



### 手とアタマを使い もっと遠くまで...

北ブロックの活動は、本部役員会議での司会・進行とPTAイベントの企画・運営の二つに取り組んでまいりました。

言葉に戸惑いながらも、ささやかなスタートでした。会議は平日の十九時から開催されるので、役員の皆さんは仕事から直行されたり、夕飯を準備し食事を子供たちに食べさせてからの出席に

### 「スポットライト」

今も私は、ロックバンドで音を鳴らしています。ステージに立てば、強烈なスポットライトが当たります。眩しくて、逃げ場はありません。でも、その光を浴びる覚悟を決めた瞬間から、音は本物になります。その感覚は、PTA活動に向き合うときにも重なります。

PTA活動の中には、派手な拍手はなく、確かに光が当たる瞬間があります。会議室の片隅、学校行事の準備、何気ない一言。その一つ一つに、目には見えな

いスポットライトが存在します。PTAは、特別な才能をもつ人の舞台ではありません。想いをもちた人全てに、スポットライトが用意されています。一人の行動が光を生み、次の誰かを照らし、やがて大きなステージになります。

「子供たちの未来」という名のステージで、スポットライトを避ける必要はありません。想いを鳴らし、光を浴び、次の世代へつないでいきましょう。ロックは、いつだって今ここから始まります。



## 令和7年度 優良PTA群馬県教育委員会表彰

群馬県教育委員会よりPTAの功績が認められ、綿打小学校PTAに優良PTA表彰が授与されました。

### 「PTA表彰に寄せて」

このたびの表彰にあたり、綿打小学校の保護者の皆様、そして太田市PTA連合会の皆様に、心より感謝申し上げます。今回評価していただいたのは、特別な活動や目立つ成果ではありません。「PTAはどうあるべきか」を、学校と保護者が同じ目線で問い直し、悩み、話し合い、少しずつ形にしてきた、その過程そのものと受け止めています。忙しさや負担感から、PTAに距離を感じる保護者が増える一方で、学校現場もまた、変わり始めています。誰かの熱意や我慢に頼り続ける仕組みでは、もう続かない。けれど、PTAが果たしてきた役割まで失っていいわけではありません。子供たちの安心を、どう守り続けていくのか。その一点から、綿打小学校PTAは考え始めました。

PTAの目的さえ共有できていれば、その手段は一つでなくいいと考えています。加入・未加入の意思確認、活動はすべて任意参加とする「活動エントリー制」など、関わり方を組織に委ねるのではなく、一人一人が考え、選び、行動できる仕組みを大切にしました。それは決して「楽をするため」ではなく、「無理なく、続けていくため」の選択です。派手な変化はありません。けれど、大人の無理が減ると、学校の空気は確かに変わります。その空気の中で、子供たちは安心して学び、失敗し、挑戦しています。

PTAの本質は、組織を守ることではありません。子供たちが「ここなら大丈夫」と思える毎日を、学校・家庭・地域が同じ方向を向いて支えること。そのための仕組みと文化をつくることこそが、これからのPTAの役割だと考えています。



なるので、皆さんそれぞれに、てんてこまいなんです。その状況を見て、会議はテンポよく進行し、議題の中心を噛み砕き、結論を明確にすることを大切にしました。開催時間も極力一時間間で終われるように心がけました。そんな会議の空気が少しでも皆さんの参加し易さに繋がれば、無事に役目を務めたことになるかと思っております。

二つ目の活動は、北ブロック主催のPTAイベントです。子供たちが主体的に参加して楽しめる行事を、北ブロックの七名の役員で話し合いました。三月一日に開催予定の『紙ヒコキ大会』は、子供たちの笑顔あふれる交流の場になることを期待しております。

日頃の遊びモジタールに依存する時間が増える現在、子供たちの手とアタマを使い紙ヒコキを飛ばす、もっと先まで飛ばす、もっと美しく飛ばしたい! など、自らの工夫で結果を変えられる、そんな体験ができればと願っております。

この広報がお手元に届く頃には、多くの子供たちの笑顔があふれるイベントが無事に終わられていることを願っております。

一年間、大変お世話になりました。